

FIVE VALUE ASSET

Monthly Newsletter

5 バリュースト通信 Vol.17

Date of issue: 2026.03.16

平素よりお世話になっております。5 バリューストアセットでございます。今月もマンスリーレターとして5 バリュースト通信をお届けいたします。マーケットニュースのご案内の他に、時事に関するコラムなどを月に1回お届けいたします。お楽しみいただけますと幸いです。

Interview メンバーの言葉



チーフ・コンプライアンス・
オフィサー
合田 潔

金融機関における不祥事が相次ぎ報じられるたび、金融に携わる者は改めて自らの存在意義を問い直さなければならぬと感じています。私たちは社会から求められている金融というニーズに、それを追求しきちんと向かい合っているのか。

「顧客重視」や「誠実さ」は、理念として掲げるだけではなく、日々の業務の中で実践されてこそ、初めて信頼に結びつくものです。我々金融商品仲介業者にとって、お客さまとの近さは大きな強みである一方、判断の甘さや説明の不足が信頼毀損につながるリスクも内包しています。だからこそ5 バリューストアセットは、法令遵守を最低限の基準と捉えるのではなく、常に「お客さまにとって何が最適か」という視点で自律的に考え、行動する姿勢を徹底しなければならないと考えています。

常に分かりやすく、プロフェッショナルの目線で市場を公平に俯瞰して、偏りのない情報のご提供を心がけ、お客さまとの対話を何より大切にしております。ご信頼は一朝一夕にいただけるものではありません。高度な専門性と誠実さの積み重ねこそが、長期的なご安心と価値提供につながる——その原点を決して忘れず、今後も業務運営の高度化に努力してまいります。

5 バリューストアセットを末永くご愛顧いただけましたら幸いです。

Topics 今月のトピックス



3
Mar. 2026

- Seminar Report
- Vernal Equinox = Nowruz
- Impressions of seminar



- ・「危機の際に人を救うものとは」（第10回オフサイトセミナー）
- ・「春分」＝「ノウルーズ」
- ・第10回オフサイトセミナーの感想（1）

Seminar Report 「危機の際に人を救うものとは」



当社ではお客さまと社会に役立つ存在を目指し、経営哲学・理念の共有や、精神性の修養に努めるべく、外部講師をお招きしてのオフサイトセミナーを定期的に催しております。今回は文筆家、フリースクール東京 Y's Be 学園実学講師の仁平千香子先生にご登壇いただいた第 10 回オフサイトセミナー「危機の際に人を救うものとは」(2026 年 2 月 6 日)をご紹介します。

仁平千香子 | 福島県生まれ。文筆家、フリースクール東京 Y's Be 学園実学講師。東京女子大学文理学部英米文学科卒業後、豪ウーロンゴン大学人文学部で修士号、シドニー大学人文学部で村上春樹研究の博士号を取得後、山口大学で 8 年間講師を務める。著書に『故郷を忘れた日本人へ』(2022, 啓文社書房)、『読めない人のための村上春樹入門』(2025, NHK 出版)など。

第 10 回となるオフサイトセミナーでは、第 9 回に続き仁平千香子先生にご登壇いただきました。今回は「危機の際に人を救うものとは」という演題で、「伝統」の役割やその効果についてお話をいただきました。導入では満州国ハイラル生まれの日露ハーフで、母方のルーツである亡命コサックの伝統やしつけを身に付け、ソ連



の満州侵攻後は 11 歳でハルビンから錦州までの千キロにも及ぶ道程を独りで踏破して日本に帰国し、後にサンボの神様として名を馳せた格闘家ビクトル古賀(日本名: 古賀正一)を題材にしたノンフィクション『たった独りの引き揚げ隊』(2012, KADOKAWA)を論じた、仁平先生の論考「伝統の価値」(『故郷を忘れた日本人へ』の第 4 章)を中心にお話いただきました。



会場は東海東京証券日本橋オフィスのセミナールームをお借りしています。



石村博子『たった独りの引き揚げ隊』



仁平千香子『故郷を忘れた日本人へ』



夏目漱石『ころ』



日本語や文学といった馴染み深いテーマが多く扱われており、質疑応答では活発な質問や感想がありました。

ビクトル古賀のケースでは、コサックの伝統や生活の知恵がサバイバル術も兼ねていたので、錦州までの道のりを無事に踏破できました。伝統とは内側から成熟する(内発的)なもの、生活や精神を支えるもの、安心を確認するもの、自然と残ってしまうものなどを指しますが、近代化(=西洋化)を果たし、夏目漱石が『三四郎』(1909)で「西洋の 300 年を 40 年で繰り返している」と記した近代日本では、その多くが忘却されています。

今回のお話の中では、近代化によって主語や「私」を明確にしたがる西洋言語が日本に輸入される中で、日本語も西洋的なもの(自動詞中心から主語 + 他動詞へ)へと変化し、個人主義や責任社会が根付いてきたことが指摘されました。一方、「私」の確立や自責の念などの問題は、夏目漱石や芥川龍之介の時代から「神経衰弱(スピード病)」や「不安」(摺みどころのない「ぼんやりとした」もの)となって近代人を悩ませ、それは現代社会にも変わらず存在していることなどが論じられるほか、「個人」であることや責任社会の描いた先駆的な作品として夏目漱石の『ころ』(1914)が取り上げられました。

西洋言語(特に英語)と比較した際、日本語は「私」を前に出すことを避ける傾向があり、出来事や流れに巻き込まれるように世界を認識し「おのずから」として受動的に認識する(西洋語は「私」が世界に対して働きかけ、世界を知覚し、所有するといった能動性が前提)という特徴があり、多くが西洋化した近現代では日本語の中に伝統が残っている可能性がある、と、仁平先生は述べられます。

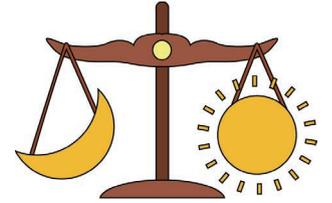
「私至上主義」や教育現場でも重要なキーワードとして頻出する「個性」や「自分らしさ」なども、人によっては生きづらさを生じさせる「不安」の悪循環となるというのは漱石や芥川の時代から続いているため、生きづらさを和らげるための知恵や安心感が、日本語の中に残っている伝統(ものの見方や、「私」を後ろに据える奥ゆかしさ)に見いだせる可能性などをお話いただきました。

(文・写真: 鈴木 真吾)

Vernal Equinox = Nowrūz 「春分」 = 「ノウルーズ」

朝夕の通勤時に暖かな陽の光を感じられるようになってきました。刻々と日が伸びているのを実感し、何とはなしに足取りも軽くなっている気が致します。そう、そろそろ「春分」を迎えるのですね。申すまでもなく、昼夜の長さが等しくなり（厳密には昼の方が少し長いそうですが）、夏至にかけてどんどんと日が長くなっていく、春の訪れを告げる節目の日です。このところ、年初の米国によるベネズエラ攻撃、先月にはロシアのウクライナ侵攻が5年目に突入、そして足元はイスラエル・米国がイランを攻撃、と暗いニュースが続きますので、平和な春が一刻も早く訪れるようお願いつつ、「春分」について思いを巡らせてみましょう。

「春分」は、古代中国の戦国時代（紀元前300年代）に発明された「二十四節気」という暦法の第4番目にあたります。この暦法は、月の満ち欠けを基準とした太陰暦では、暦と季節にずれが生じるため、太陽の1年の動きを24に分けて季節の目安としたものだそうです。無知な筆者は24節全てを覚えてあろうはずもなく、せいぜいスタートの立春と、春分・秋分、夏至・冬至くらいしか頭に入れておりませんが、感覚的に非常に解りやすい目安だと感じます。古代社会において季節を読むことは農耕に欠かせない非常に重要なツールでしたので、解りやすく合理的なものも当然と言えましょう。



さて「春分」、日本では「春分の日」として国民の祝日となっております。1948年に公布・施行された「国民の祝日に関する法律」によって制定され、同法第2条で「春分の日。自然をたたえ、生物をいつくしむ」としています。特に意識もせず、春になるとおもてに出て自然と親しみ、草花等を愛でることをしておりますが、法律で明文化されているとは恥ずかしながら知りませんでした。

この「春分の日」ですが、祝日としての歴史が意外に浅いのかと思いきや然に非ず、それ以前は「春季皇霊祭（秋分の日は秋季皇霊祭）」として、やはり祝日（厳密には祭日）でした。こちらは1878年改正の「年中祭日祝日ノ休暇日ヲ定ム」により制定されておりました。なお、皇霊祭自体は宮中行事として現在も行われているそうです。

さらに時代を遡ると、「春分」はお彼岸の中日、先祖供養や仏教行事として重要な日でした。記録に残る最古の仏教行事としてのお彼岸（彼岸会）は、806年（延暦25年）だそうです。また仏教伝来以前は、日出づる国ですから、恐らく土着の太陽信仰や農耕暦として何らかの形で「春分」は意識されていたのではないかと想像します。

では、諸外国ではどうでしょう。キリスト教圏の国々では、特に「春分」が祝日にあたることはないようですが、実は復活祭の日付を算出する重要な基準日として認識されています。すなわち、「春分」後の最初の満月の次の日曜日を復活祭の日と定めるのです。

さらに「春分」が重要な日である国々があります。イランをはじめとするシルクロード沿いの国々においては、「春分」の日は「ノウルーズ（ペルシャ語で新しい日の意）」と呼ばれ、イラン暦における元日に当たるのです。

その起源は、3000年以上前の古代イランにおけるゾロアスター教の新年の祝祭に由来するとされ、「二十四節気」よりも少し前の古から連綿と続いており、多くの国で国家の祝日となっています。（恥の上塗りですが、筆者は今の今までこの「ノウルーズ」を知りませんでした・・・）

以前も当欄でご紹介したことがありますが、日本の相場格言に「節分天井、彼岸底」があります。「彼岸」すなわち「ノウルーズ」まであまり日がありませんが、何とか停戦合意にこぎつけて、イランを巡る混乱が平和裏に底を打ち、華やかな「ノウルーズ」の祝祭が執り行われることを願って止みません。

（文：野口智之）

Impressions of seminar 第10回オフサイトセミナー感想(1)

当社では週例ミーティング後、勉強会の一環として5バリュー発表と題した持ち回りの発表を行っています。今回は「第10回オフサイトセミナーの感想」というテーマでの発表要旨をご紹介します。



米国のウエルスマネジメント業界では、ITなどに多大なインフラ投資を行っていますが、これはファイナンシャル・アドバイザー（FA）の価値を向上させることを目的としており、FAがウエルスマネジメントの中心であるという点には変わりありません。その背景には、業界においてFAという個が確立され、個の裁量が大きいと同時に責任が明確にされていることがあると考えます。

当社はメリルリンチの価値観を継承しており、メリルの考え方が日本の金融界に広まってほしいと思っておりますが、状況としては我々が稀有な存在となっています。今回、仁平先生のお話しをお聞きして、業界の潮流に流されるのではなく、我々の価値観を守り5バリューを維持していくことがますます重要になると感じました。

（山村 浩之 副社長 兼 ヘッドオブ東京オフィス）

昨今ではAIが広く浸透しており、お客さまもAIを信じ、AIが教科書に書かれているような解答に終始しても、お客さまはそれを頼りにして投資を行う傾向が多いという印象があります。

我々は、長年培ってきた債券の経験や実績を基にして、高い知見が要求される低格付け債券の選別やマーケットの歪みを見つけ出し、チーム全体で協力しながら債券を提案しています。そのような協力体制が、仁平先生のいう「伝統」にあたりと考えており、それを継続することで、当社の強みや他社との違いをお客さまに感じていただけると考えます。

（鐘ヶ江 伸 チーフ・マーケティング&プロダクトオフィサー）

仁平先生のお話では、英語は世界を説明し、日本語は世界で起きていること＝流れを説明する言葉という点や、「日本語の伝統とどう向きかうか」という結部での問題提起が印象に残りました。

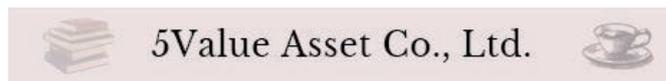
弊社は小規模の会社ゆえ、規模の拡大を通じて、その価値に普遍性を付与することは困難ですが、時間軸の中で永遠性を価値に付与することができると思います。それは伝統を形成するプロセスとも解釈でき、5バリューの価値を会社の伝統として消化できるような気概を持って、会社の価値を言語化していきたいと思いました。

（青野 純一良 社長室長）

仁平先生のお話にあった教養の修得や、過去の自分との繋がりを知ることはウエルスマネジメントの実践に通ずるものがあります。業務の経験やマーケット変動の体験、メリルリンチで厳しいコンプライアンスを叩き込まれるなど、当社には長きに渡り様々な経験を通じて知見を身に付けてきたプロが集まっています。

昔ながらの伝統は時代と共に薄れがちですが、伝統を知っているからこそ経験や知見が生き、独自の提案ができると思います。また、弊社には債券中心の投資哲学があるため、金融業界での流行商品に合わせるのではなく、お客さまそれぞれのニーズにあったご提案を行い、チームワークを活かし最高のクオリティを持って尽くすことができる、唯一無二のIFA法人であると思います。

（根本 晴美 営業アシスタント）



5バリューアセット株式会社 金融商品仲介事業者 近畿財務局長（金仲）第437号

各商品等にご投資いただく際には商品毎に所定の手数料や諸経費等をご負担いただく場合があります。又、各商品等には価格の変動等による損失を生じる恐れがあります。各商品等へのご投資にかかる手数料等およびリスクについては、当該商品等の契約締結前交付書面、目論見書、お客様向け資料等をよくお読みになり内容について十分にご理解ください。

この通信は、当社ホームページに掲載するほか、当社セミナーにご参加いただいた方、業務提携をいただいた方、およびIFA口座をお申し込みいただいた方に送付しております。送付の停止・送付先変更をご希望の場合は、大変お手数ですが下記のメールにご連絡ください。送付の停止・送付先変更には、少々お時間をいただく場合がございます。

発行者：5バリューアセット株式会社 クライアント・リレーション

〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-4-1 丸の内永楽ビル20F

newsletter@5valueasset.com